

東北暫定行政機構の 設置を提案します

仙北市長
門脇 光浩

大震災後、国や県の復興に向けた動きを見ていて不安を感じます。私は当面、東北地方の県という単位を暫定的に見直さなければ、復興を成し得えないのではないかと考えています。

例えば被災者の一時避難についていえば、岩手県は基本的に県外に出さない、宮城県は県外避難を容認、福島県は津波被害以上に原発事故対策が後手となり、未だ混乱の中にあるなどバラバラです。逆にいち早く受け入れ準備を整えた本県の情報が、被災地には届きませんでした。各県で情報共有が未熟だったために、その後の食糧や物資の偏在、ボランティアが殺到する町もあれば、人手不足で運営が困難になっている避難所もあるなど、避難生活の質的な不均衡が起きてしまいました。

店をおく企業の撤退対策、ガレキの撤去と処理場の確保、食糧団地の育成、工業の分散化、電力の確保、観光の周遊化など。東北が一丸となって取り組まなければならぬ課題が山積する中、東京(霞ヶ関)が東北の価値や役割、能力を理解し、本気で明日の東北を描こうとしているのか、まことに心配です。私は、東北が自らの手でビジョンを策定し実践する組織「東北暫定行政機構(仮称)」の設置が必要と考えています。東北6県は、緩やかに一体化した行政機構(メンバーは6県知事と国務大臣、市町村長代表者など)を立ち上げるべきです。国はもちろん東北の各県・各市町村が財源を持ち寄り、並列して各県・各市町村議会代表者が議論を行い、県の枠を越えた復興事業を押し進めるのです。識者・企業・各県民などの参加もいただきながら、東北力の結集を図ることが、何より重要だと思っております。

大震災支援 NEWS & Information ニュース&インフォメーション

問合せ：東日本大震災支援本部 ☎ 43-0261

ニュース

宮城県女川町から 108 人が避難

5月6日、宮城県女川町から、大震災で被災した55世帯108人が仙北市へ避難してきました。

避難してきたのは、これまで、同町の10カ所の避難所で生活してきた1歳から89歳の方々。

今回の避難は、宮城県からの要請による長期避難者受け入れで、田沢湖高原温泉郷の4つのホテルに、半年をめどに滞在する予定です。



親戚や知人宅等に避難されている皆様へお願い

避難者の方々に、避難前にお住まいの市町村からの見舞金など各種給付、国民健康保険証の再発行、税や保険料の減免などに関するさまざまな情報を提供することや、仙北市での各種支援を行うため、現在仙北市に避難されている方で、まだ避難者の届出をしていない方は、早めに「仙北市東日本大震災支援本部」まで電話でご連絡をお願いします。

夏用衣料提供のお願い

市民の皆様には援助物資の提供や被災地での炊き出し等にご協力をいただき感謝申し上げます。

仙北市では、現在190人余りの方が旅館や知人宅等で避難生活を送っています。今後の状況次第では、避難される方々の増加が予想されています。

これから夏に向け被災地や仙北市で避難生活をされている方々への支援の一つとして、夏用衣類の提供を行う予定です。

市民の皆様には支援物資の提供についてご協力をお願いします。

受付物資／夏用衣類(半袖シャツ・Tシャツ・ズボン・下着等)

※衣類は、洗濯、クリーニング済みのもの、下着は未使用品に限ります。

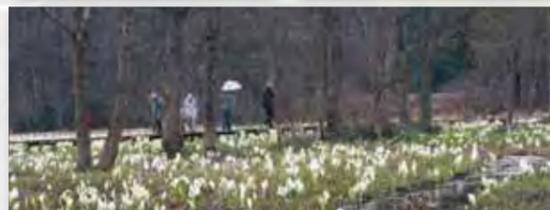
受付期間／平成23年5月25日まで

受付時間／8:30～17:15

受付場所／田沢湖・角館・西木地域センター、田沢・神代・桧木内・上桧木内出張所
※出張所は、平日のみの受付となります。

がんばろう！東北 角館の桜

5月8日まで開催期間を延長し、連休の後半には見頃を迎えました。



八津・鎌足がたくり群生の郷

4月22日から5月5日まで開催され、無数に咲いた花を楽しむことができました。

刺巻ミニズバシヨウ祭り

期間を5月7日まで延長して開催され、水辺に咲いた花が心を和ませてくれました。